

【発行元】

東野建設工業株式会社
〒020-0807
岩手県盛岡市加賀野2-8-15
TEL : 019-623-5575
FAX : 019-623-5576

月刊「工場・倉庫通信」を発行する「ハコボン建築」は、東野建設工業が運営する工場・倉庫建築ブランドです。工場・倉庫オーナー様の出店計画から操業後のメンテナンスまでトータルサポートをお約束します。東野建設工業の創業87年の実績に甘んじず、お客様のご要望に真摯に向き合い、“低価格・短工期・高品質”な工場・倉庫建築を実現します。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営に関する情報などリクエストも大歓迎です。今後とも、「ハコボン建築」を宜しくお願いいたします！

物流業界の中継拠点づくりとは？

物流業界では、働き方改革関連法への対応を迫られています。

2023年以降に、時間外労働に対する割増賃金（25%⇒50%引き上げ）や、上限規制（年960時間の上限）が適用されます。

トラックドライバーの人材不足や企業の利益圧迫などの問題（2024年問題）に対して、中継拠点づくりが注目されています。

中継拠点づくりとは？

中継輸送では、1つの輸送行程を複数のドライバーで分担し貨物を輸送します。

分担するので1人の運行より長時間労働が改善され、ドライバー1人当たりの運転時間や移動距離を短縮できます。



● 中継拠点なし



● 中継拠点あり

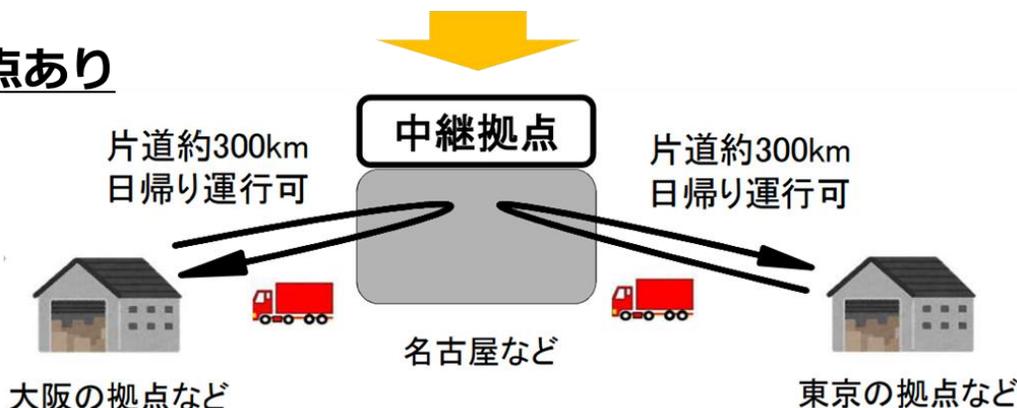


図.中継拠点づくりのイメージ

中継輸送の3つの方式と今後の課題とは？

中継輸送の方式は、①トレーラー・トラクター方式（ヘッド交換方式）、②ドライバー交替方式、③貨物積替え方式があり、全国で導入に向けた実証実験が進められています。

①、②は、ヘッドやドライバーの交換がほんの数分で完了するため、ドライバーの拘束時間の削減効果も確認されています。

中継輸送の方式のまとめ

中継輸送方式の導入には、初期投資がかかります。業界大手の運送事業者に比べて、体力のない中小・零細の運送事業者の参加は、若干、ハードルが高くなります。

中継地点での到着時間の遅れや事故の発生などについて、事前の協議、書面と取り交わしなども必要です。

複数で実施する場合は、輸送効率が良くなった分、運賃コストが安くなるなどのデメリットも運送事業者から指摘があがっています。

一方で、中継輸送方式の導入は、不規則な就業形態や長時間労働を解消できるとともに、女性の短時間勤務の導入など、新たな可能性も広がります。

関係省令・通達において中継輸送に関する規定・解釈を明確にし、制度面を含め環境整備を図っていくことが期待されます。

2024年に向けて、発注元や協力会社とも連携した中継輸送づくりについて検討を進めていきましょう。



工場・倉庫建築に使える
お得な補助金レポートはこちら



工場・倉庫建築専門店「ハコポン建築」

(お問合せ窓口: 牟田、高村)

TEL: 019-623-5575 FAX: 019-623-5576

〒020-0807 岩手県盛岡市加賀野2-8-15

※尚、今後このようなご案内が不要な場合は、右の欄にチェックを入れて019-623-5576迄ご返信をお願い致します。

案内
不要

お問合せは
コチラまで